

令和二年度 前期選抜学力検査問題
国語 (一時間目 四十五分)

受検番号

氏名

注意

一 問題は、表と裏にあります。
二 答えは、すべて解答欄に記入しなさい。

表 合 計

一 次の文章を読んで、1～6の問いに答えなさい。

合 計

二次の文章を読んで、1～6の問いに答えなさい。

三 次の文章を読んで、1～4の問いに答えなさい。

十五夜が近づいたある夜、ついに天人が、月からかぐや姫を迎えにやってきた。天人は、かぐや姫が月に帰るために必要な天の羽衣と不死の薬を持参した。そして、不死の薬を飲むようにかぐや姫に勧めた。

いささかなめたまひて、すこし、形見とて、脱ぎ置く衣に包まむとすれば、在る天人包ませず。御衣をとりいでて着せむとす。その時に、かぐや姫、「しばし待て」といふ。「衣着せつる人は、心異になるなりといふ。物一言いひ置くべきことありけり」といひて、文書く。天人、「遅し」と、心もとながりたまふ。

かぐや姫、「物知らぬこと、なのたまひそ」とて、いみじく静かに、朝廷に御文奉りたまふ。あわてぬさまなり。

〔「竹取物語」による〕

【注】 *なめたまひて……(薬を)おなめになつて *御衣……天の羽衣 *心もとながりたまふ……じれったくお思いになる *物知らぬこと、なのたまひそ……情け知らずなことをおっしゃるな *朝廷……みかど

1 包まむ^① いふ^② を現代仮名遣いに直し、すべて平仮名で書きなさい。

①
②

2 天人^③ 御文^④ の後に助詞を補うとき、最も適切な語を、次の語群からそれぞれ一つずつ選んで書きなさい。

③
④

3 しばし待て と、かぐや姫が言ったことについて、次の問いに答えなさい。

(1) かぐや姫は、天人のどのような行動に対して、「しばし待て」と言ったのか。それを示す一文を探し、始めの三字を抜き書きしなさい。

(2) かぐや姫が、「しばし待て」と言った理由を次のようにまとめた。「a」「b」に適する内容を現代語で書きなさい。

a	b

4 次の文章は、本文に続く、みかどに宛てたかぐや姫の手紙の一部である。また、〈手紙から読み取れること〉を後のようにまとめた。これらを読んで、「a」とは適する内容を現代語で書き、「b」には当てはまる内容として最も適切なものを、後のア～エから一つ選んで記号を書きなさい。

かくあまたの人を賜ひてとどめさせたまへど、許さぬ迎へまうで来て、*取り率てまかりぬれば、口惜しく悲しきこと。

【注】 *賜ひて……おつかわしく下さり *取り率てまかりぬれば……私をとらえて連れてゆきますので

〈手紙から読み取れること〉
が、「あまたの人を賜ひてとどめさせたまへど」から、かぐや姫と自分とが分る。また、「口惜しく悲しき」に、かぐや姫の、「b」が表れている。

エ ウ イ ア
みかどの過分な御厚意に対しての戸惑い
天人の身勝手なふるまいに対しての怒り
自分ではどうにもできない運命への嘆き
月にすぐ帰ることができないもどかしさ

a	b